

知事をはじめ各審査員等からのコメント**大野 元裕（実行委員会会長／埼玉県知事）**

次の世代を担う新たな才能の発掘を目的とするこの映画祭も今年で18回目を迎えます。コロナ禍にあっても、映画祭の目的を果たし映像産業の灯を絶やさないために、昨年に引き続き、今年もオンライン配信で開催することといたしました。今年は、104の国と地域から1,084本の作品が寄せられ、「国際映画祭」の名にふさわしく注目や期待を集めていることを嬉しく思います。海外に出掛けることがままならない状況の中、映画を通して「世界」に触れていただき、若手クリエイターの才能のきらめきを感じ取っていただければと思います。

奥ノ木 信夫（実行委員会副会長／川口市長）

昨年初めての試みとなったオンライン配信では、全国で総視聴回数8,142回を記録し、今までご来場いただけなかったお客様にも、広く作品をご覧いただける機会となりました。コロナ禍の今だからこそ、ご自宅で、世界各国から厳選された映画の数々をお楽しみいただきたいと思います。また、今年の国際コンペティション部門の審査委員長は、俳優・映画監督として名高い竹中直人さんに務めていただきます。どの作品がグランプリに輝くのか、審査員の講評にもご注目いただきたいと思います。

竹中 直人（国際コンペティション審査委員長／俳優、映画監督）

すっげえ！、なんだこれ！、怖い！、なんて感動的！、そんな素敵な映画が、いっぱい集まってくると思います。僕は心の奥底から、その日を楽しみにしております。皆さんに出会えること、最高の映画に出会えること、とてもとても楽しみです。

くにごね みずえ 國實 瑞恵（国内コンペティション審査委員長／株式会社鈍牛倶楽部代表取締役、プロデューサー）

昨年に続き、今年もまたコロナ禍ではありますが、映画祭が開催されることに、大変喜びを覚えます。厳しい条件の中での撮影で皆さん大変ご苦労なさいと思います。今年もまた素晴らしい作品に出会えることを楽しみにしています。

土川 勉（映画祭ディレクター）

コロナの影響は今年に入り、現在も一向に収束する気配がありません。しかしだからと言って、私たちの映画祭は立ち止まることはできません。何故なら、どんな状況でも映画の新しい才能は止まることなく次々と誕生しているからです。普段、私たちが訪れることのない国や地域からの映画、そして国内外の様々なジャンルの映画をお届けいたしますので、皆様にはこれらの映画を十分堪能していただけると確信しております。

